

令和5年度 第2回田原市図書館協議会議事録

日時：令和5年11月16日 午後2時～午後4時

場所：田原文化会館204会議室

出席者：協議会委員8名

（河合、本田、渡邊、一ツ田、内浦、小澤、北原、永田）

事務局3名（是住、朽名、宮嶋）

議事内容

- ・開会
- ・館長あいさつ
- ・協議
 - 1) 前回の議事録の確認について
 - 2) 令和5年度田原市図書館事業計画目標達成状況の中間報告について
 - 3) その他報告事項
 - ・中央図書館等空調設備及び照明器具（LED化）改修工事、渥美図書館照明器具（LED化）改修工事について
 - ・令和4年度図書館事業年報について
 - ・令和4年度田原市図書館事業評価の公表について
 - 4) その他

事務局：本日は、お忙しいところ、ご出席くださいます、ありがとうございます。家禰委員から欠席の連絡をいただきました。ただいまの出席委員は8名です。過半数に達していますので、令和5年度第2回田原市図書館協議会は成立いたしました。これより開会いたします。では、開会にあたり館長から挨拶をお願いします。

館長：本日はお忙しいところ図書館協議会へご出席いただきまして、ありがとうございます。暑くて長い夏がようやく終わったと思ったら、もう冬になってしまって、秋を満喫する時間が今年は無かったように感じています。さて、図書館では現在、豊橋市図書館との連携事業である「みんなで作る本の街」というイベントを開催しております。田原で活躍する方々や、ふしぎ文学半島プロジェクトでお世話になっている翻訳家の金原瑞人さんやアンソロジストの東雅夫さんにも選書を依頼しまして、箱の中にそれぞれのテーマに沿った展示を行っています。また展示している箱は、豊橋工科高校のウッドクラフト部において、廃材を

活用していただいて作ってもらったものになります。年明け1月11日まで開催しておりますので、ぜひご覧ください。

本日も協議会委員の皆様には、図書館運営に関して、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。ここからは河合委員長に議事の進行をお願いします。

委員長：それでは、早速議題に入ります。まず協議事項1「前回の議事録の確認について」事務局から説明をお願いします。

館長：議事録案は通知文に同封させていただきました。修正箇所や気になるところはありますか。

(特になし)

では、こちらの内容でご了承いただけたということで、図書館のホームページに掲載したいと思います。

委員長：続けて協議事項2の「令和5年度田原市図書館事業計画目標達成状況の中間報告について」事務局から説明をお願いします。

館長：(配布資料に基づいて説明)

委員長：それでは質問や意見がありましたらお願いします。

委員：6ページの「赤羽根図書館の複合化」について、中日新聞に赤羽根文化ホールと市民センターと図書館の入る建物を廃止にするという記事が大きく掲載された。市長が選挙の公約に掲げていたことでもあり、そういうことかと思ったが、記事の中には3区の区長を対象に説明会を開いて話を聞いて、区長から図書館については子どもが利用しやすい施設にと要望を言っていたと思う。区長に説明した中では、同じ施設内にある赤羽根福祉センター内に市役所の窓口機能と図書館機能が入る案が示されたらしい。行政は全て決まった段階で出してくる。地域コミュニティの数人の役員に話を聞いて、それで住民の総意に基づきと言うのはおかしいと思う。今はどの程度話が進んでいるのか。

館長：記事が出てから市民の皆さんが心配されて、担当している企画課へ話を

聞きに行く人もいると聞いている。その後、具体的な方向性が決まったというわけではない。今はいろんなご意見をいただいている状況。福祉センターに集約するのは狭すぎるのではないかというご意見も伺っているが、新たな建物を作るのかということも含めて検討中の段階。コミュニティ以外でも、赤羽根図書館で利用者からお聞きしたご意見も全て記録し、担当課内で共有している。

委員：8月に渥美図書館で実施した「議員とたはらトーク in 渥美図書館」に私も参加した。それが良かった。そういうものを今度は赤羽根地域でやってもらって、議員と住民が話をする機会を作ったらどうか。

館長：議員とたはらトークは田原市議会が主担当でやっている。今年度の取り組みに入れるのは難しいかもしれないが、毎年図書館で実施しようと言っている。渥美が終わった時に赤羽根でも出来ると良いという意見も出ていた。図書館をテーマにすることができるかは不明だが、赤羽根地域で開催することも可能だと思うし、ぜひやってみたい。

委員長：3ページのGIGAスクール構想で、学校図書館の電算化について予算要求中となっているが、その後はどうなっているか。

館長：昨年度にデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業として図書館から応募したかったのだが、田原市としては他課の事業を優先するという結論になり、そちらの事業が採用されて今年度実施された。来年度予算分について、再び交付金の募集があればチャレンジしたいと考えている。

委員長：学校の若い教員だとタブレットが貸し出されているので、図書館で調べ学習は要らないのではないかという誤った認識をしてしまう傾向もある。インターネット情報に加えて、本の良さもあるので学校図書館を使ってくれると嬉しいと思う。

館長：今の学校図書館は「読書センター」に加えて「情報センター」でなければならないのに、学校図書館にはパソコンも無くて、ずいぶん取り残されてしまっている状況で、改善が必要だと説得していきたい。

委員：2校だけ電算化されているということだが、電算化されている学校とさ

れていない学校では、先生たちの実感はどう違うのか。

委員長：電算化されている学校にいましたが、貸出は学校司書がやってくれるので、教員が貸出手続きをすることはなかった。けれど、便利さは全然違うと思う。

館長：電算化されていないと、どんな本があるのか検索できない。学校司書の頭の中にしか入っていない。ちゃんとした学校図書館のシステムが入ると、図書委員など子どもたちが貸出手続きをすることができるようになる。

委員：電算化は実現しなければならない。

委員：学校司書の配置は、中央図書館が出来た頃から取り組まれていて、人的な面では東三河地域の中で比較すると充実している。学校の先生たちも学校司書がいると、すぐに必要な本を用意してくれるので学校司書がいることの利点は大きく、全然違う。子どもに提供する資料の質が変わってくる。田原は専任ではなくて2校か3校を兼任しているが、豊橋などと比べると恵まれている。豊橋は学校図書館センターを作って補充をしているが、一番身近な学校で司書と話ができる環境は重要。田原では学校司書の配置が始まった頃から電算化の話は出ていたのに、そちらは一向に進んでいない。せっかく学校司書がいるのに電算化されていないので効率が悪くなっている。

委員：GIGA スクールについては学校ではどのように進んでいるのか。

館長：1人1台タブレットの配備と、インターネットにつなぐことのできるネットワーク環境の整備が進んで、授業で使われている。

委員長：授業でインターネットにつないで使うが、一度に大量に接続すると不具合が出たりすることもある。

委員：図書館でプログラミング教室をやっているが、毎回同じ子が来ていて、親御さんの関心度によっても違うのかもしれないが、もっと広がると思う。

委員長：得意な教員はたくさん使って教えている。田原の場合は、校舎の中でタ

タブレットを壊してしまった場合は補償の対象になるが、校舎外で壊してしまうと個人で修理しなければならない。例えば家に持って帰って積極的に活用するとなると、いろんなトラブルが予想される。そういう心配はある。

委員：豊橋では、毎日持って帰るのではなくて、例えば土日だけとか。タブレットを使った宿題も毎週末出るわけではなくて、出るとしても簡単なもの。コロナ禍や災害などで何が起きるか分からないから、その時に向けて準備を整えましょうという意味で家でも使っている。家でタブレットを使って学習することが主ではない。ただ、タブレットの宿題の方が子どもはゲーム的な要素があるので楽しんでやっている。それを使って深い学びをするということではない。

うちの子どもは1年生だが、家ではあえて触らせていない。学校だけの使用でも、子どもはすぐにできるようになる。

NHK for School というすごいコンテンツがあって、図鑑が何百冊も入っているのと一緒に、基本的にはそういうものを見て興味があるものを吸収すればいいと思う。ただ、デジタルだけじゃない本の良さがあるので、人の成長にとって必要な栄養のように、そういうものを教える環境が大事で、本も必要な時に必要な本を手にとることができる環境とそれを教えてくれる教員や学校司書、親たちも含め、それがセットになるソフトがあるとすごく良いと思う。

委員：郷土資料の充実について、豊橋市では5年生か6年生になると地域の偉人や昔の事件を調べる。吉田藩の出来事とか高度なことも調べている。学芸員が授業で入って教えて、自分たちで地域資料を調べてまとめて発表して、当時のことを推測して議論をしている。その研究発表授業を見た。研究指定校なので特別にやりこんでいることもあるが、地域資料が活用されている。世の中に一般的な教材はあるが、地域資料は電子化もされていないし、まとめられていない。学校現場や学校図書館にどう還元していくか、どう使っていくとよいのかもセットで検討してもらえると嬉しい。

館長：デジタル田園都市国家構想交付金に申請しようとしている事業では、電子書籍サービスの中に地域資料といった独自コンテンツを掲載できるので、それを利用してふるさと教育を推進させていきたいと考えている。昨年度から、とりあえず既存のコンテンツでも使えるものがたくさん

んあるので、それを集約することからやろうと、関係者会議で話している。

委員：田原では、町史を作るときに各村で資料の綴りを作らせている。当時は地元の人間や地元の小学校の先生が作った。その後随分散逸しているのではないか。特に町村合併をした時に文書を大量に廃棄している。そういうものがいっぱいあって、市民館の書庫などにそういうものが眠っているのではないか。

委員：心配なのが司書の仕事を AI がとっちゃっているような気がしている。今、Amazon とかで本を検索すると芋づる式にいろんな本が表示されてくる。これが結構賢い。逆にそれを使い込めれば良いが。

館長：今、チャット GPT とか生成 AI が話題で、過去の大量のテキストデータや統計データとかを学習して、質問すればスムーズな言語処理でそれなりのことを返してくる。まだまだ図書館司書のレファレンスレベルには達していないというのは実感としてある。チャット GPT が出した答えの出典が全く分からない。AI が脅威と言われていて、お母さん方向けに AI に負けない子どもを育てる本がたくさん出版されている。そういった本を読んでも、AI は過去のデータを計算して出しているだけで、新しいものを生み出す能力がない。AI ができない、文脈をとらえるとか意味を考えると、そういう方面を伸ばすべきという意見が多い。そのためには読解力が必要で読書の大切さを強調している研究者も多い。

委員：意図的にデータを蓄積させて偏らせることも可能で、だから怖い。例えばイスラエルとハマスの対立原因を宗教に持っていつている。本来は宗教の対立ではない。事実を知るとそうではないことが分かるが、情報が偏ってしまう。ナレッジバンクというものがあって、その蓄積が一番大事だと思う。

館長：地域の事、ローカルデータは学習データとして使えるものが今は少ないので、AI では正しく答えられない。地域で AI を活かしていこうと思ったら、元になる学習データを整備しないといけないので、そういうことができる地域は強くなっていくだろうし、できないところは置いていかれるだろう。大きな自治体では、市史編纂時に集めた史料をきちんと

整理して図書館などで保存したり、出版したりしているところもある。渥美の郷土資料館にも市史編纂時の資料があると聞いている。

委員：まだマイクロフィルムになっていけばいいが、デジタルにもなっていない資料がたくさんある。

館長：博物館もデジタル化を進めて行く方向性が出ているが、どこまで手が広げられるか、すでに所蔵している史料からやってくことになると思う。

委員：地域資料となると、資料を持っている博物館との連携をしていかないといけない。江戸時代の文書は相当あって、それがなぜか地元にはなくて愛教大にあって教材になっていたりする。

館長：内浦さんが言っていたような、学校で使いやすいような仕組みも重要だ。福井県文書館では、デジタル化された地域資料を学校の教科書で学ぶ事項を合わせて、これを学ぶ時にはこの資料を使って教えるといいというようにセットで提供している。そこまでいければベストだが、特定のテーマに関連する資料を取り出せるところまでは行きたいと考えている。

委員長：各学校でも調べ学習や総合で同じようなことをやってきているので、蓄積はある。この学校では毎年何年生は江崎巡査のことを取り上げて調べるとかはやっている。

館長：各学校にあるコンテンツも集約して、一般の方も含めてみんなが使えるようになればいい。

委員：データバンクとして集められると良い。

委員：4ページの乳幼児向けおはなし会の実施とあるが、100回くらいやっていると書いているが、保育所とかどういうところへ行っているのか。

館長：毎週水曜日に乳幼児向けのおはなし会を実施している。参加者を変えて同じものを2回続けてやったりもすることもあるので、数が多くなっている。保育園や学校から出張を依頼されて出向いておはなし会をすることもあり、そちらは別でカウントしている。

委員：子どもたちがスマホを持っていて、性の知識がない子どもが性被害にあって危険性が高まっている。実際に相談を受けた事例だが、小学校5年生の女子がネットで男性と繋がって、裸の写真を送るように言われて、あやうく送信してしまう寸前で親が気付いて止められた。性教育を受けていないので、他人には見せてはいけないプライベートゾーンがあることなど、小さい頃から学んでおかなければいけない。被害に遭いそうになった子の親は慌てて、性に関する本を読んで聞かせて教えたそう。うちの子に限って大丈夫だということはない。学校での性教育に限界があるので、保育所時から性教育を教えることが大事だ。図書館で出来るのなら一つの方法かと思う。

館長：YAROMAI というまちづくりの団体がやっている性教育の取り組みがあって、学校ではなかなか踏み込んだ授業ができないから、すくっとで親子を集めて教える活動をしている。図書館も会場として使えますよと案内している。豊橋市のまちなか図書館では定期的に性教育のイベントを実施している。プライバシーが保護されるブースで相談することもできるようだ。最近、性教育に関する図書も多く出版されていて、私たちも積極的に購入している。

委員：かつて渥美の産婦人科の先生が学校で性教育をしてくれていた時期もあった。一時期そういう活動が無かったが、YAROMAI が市の助成事業を活用して性教育の活動をしてくれている。これまでタブー視されていて、オープンに親子で話をするのが憚られることがあった。このようなチャンスがあると広がっていくと思う。

委員長：学校でも学級活動や特別活動の中で性教育について取り上げるというのはあるが、担任と子どもの関係の中で話しづらいということはある。講師に来てもらって話をしてもらおうとかも良い。

委員：朝読書の時にこういう本があると紹介すると良い。学年に合うような本を選べばよい。

委員長：それでは、協議事項3のその他報告事項「中央図書館等空調設備及び照明器具（LED化）改修工事、渥美図書館照明器具（LED化）改修工事について」をお願いします。

館 長：(配布資料に基づいて説明)

委員長：このことについて質問等はよろしいですか。では、続けて「令和4年度図書館事業年報について」お願いします。

館 長：(配布資料に基づいて説明)

委員長：このことについて質問等はよろしいですか。では、続けて「令和4年度田原市図書館事業評価の公表について」お願いします。

館 長：配布した「令和4年度田原市図書館事業評価」について、前回の図書館協議会で協議していただいた内容を外部評価としてこちらに掲載しました。これで評価が完成したので、図書館のホームページでも公開していますので、ご報告をさせていただきます。

委員長：この件について、ご質問等よろしいでしょうか。以上で協議事項は終わりますが、その他について何かありますでしょうか。

委 員：(配布資料について説明)

委員長：それでは以上で、本日の議事は全て終了しました。

ご協力ありがとうございました。

これをもちまして、令和5年度第2回田原市図書館協議会を閉会とさせていただきます。